

み え けん  
三重県

# こころのノート

小 学 校 1 ・ 2 年

三重県教育委員会

## みなさんへ

みなさんは、大きく になったら どんな人になりたいですか。  
一人ひとり、いろいろな ゆめや 目ひょうが あると 思います。  
その ゆめや 目ひょうを かなえる ためには、あきらめずに  
ねばり 強く がんばる ことが 大切です。

いのちを 大切に すること、人への 思いやりの 心をもつ  
こと、ありがとうの 気持ちをつたえる こと、やくそくや  
きまりを まもる こと なども、大切です。

みなさんが すんで いる 地いきの すばらしさも 見つけて  
ください。

このような ねがいを こめて、「三重県 ころのノート」を  
つくり ました。

この「三重県 ころのノート」には、みなさんが すんで いる  
三重県の 自ぜんや 生きもの、まつり、むかし話 などが  
かかれて います。

道とくや いろいろな 学しゅうの 時間に、この 本を 読んで、  
三重県の すばらしい ところを知って ください。

また、かんじた ことや 考えた ことを 友だちと つたえ  
あい、自分や 友だちの よい ところを見つけて ください。

そして、みなさんの 心を 大きく ゆたかに して ください。

平成 26 年 3 月

三重県教育委員会

# もくじ

- ろっぱのいすい かん だようすい  
六把野井水・神田用水 ..... 1  
まち がっこう  
町や学校を しょうかいしよう
- ふる つた まつ ぎょうじ  
古くから伝わる お祭りや 行事 ..... 5  
わたしたちのまち  
わたしたちの町を しょうかいしよう
- シデコブシ ..... 9  
たいせつ し  
大切な自ぜんを みんなで まもろう
- た まるじょうあと  
田丸城跡 ..... 13  
たいせつ ば  
大切にしたい 場しょをさがそう
- ま か え  
麻加江のかんこおどり ..... 17  
まち  
町につたわる おどりをしらべてみよう
- たねまきごんべえ ..... 21  
うた ひろ はなし  
歌とともに広まったお話をよんでみよう
- みね や くろう きしゅうけん  
峯弥九郎と 紀州犬 ..... 25  
はなし  
ふるさとにつたわる お話をさがそう

み え けん  
三重県

# ところの スタート

小学校1・2年



とういんちょう 東員町

# まち がっこう 町や学校を

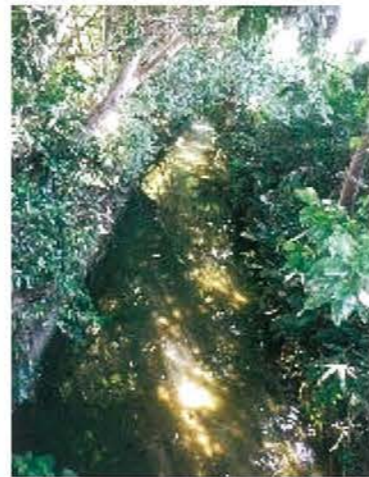
## ろっぱのいすい かん だようすい 六把野井水と神田用水



とういんちょう 東員町に すむ りょうたろうくんから まち がっこう 町や 学校を しょう  
 かいする お手紙が とどきました。とういんちょう 東員町は どんな まち  
 りょうたろうくんの がっこう 学校は どんな 学校かな。

ぼくたちの じ 自まんは ろっぱのいすい 六把野井水という  
 むかしの ひと 人が つくった かわ 川です。とういんちょう 東員町  
 は、むかし、たんぼに つかう みず 水が 少な  
 くて こまる ことが ありました。そこで、  
 いなべ川の じょう 上りゅう から とういんちょう 東員町まで  
 みず 水が ながれるように こう 工じを しました。  
 ろっぱのいすい 六把野井水は、ぼくたちの がっこう 学校の ま下  
 を とお 通っています。こう 校しゃや うんどうじょう 場の  
 じ 地めん の した を ながれています。ろっぱ  
 のいすい 野井水の水は 今でも つめたくて きれいです。

ぼくは むかしの ひと 人たちが みんなで くらうして  
 つくった だいじ 大事な ものが 今も のこっていて、とても  
 うれしいです。



いま つかわれている ろっぱのいすい 六把野井水のようす (稲部小学校提供)

# しょうかいしよう

## ろっぱのいすい 「六把野井水」のあゆみ

いま から 400年 くらい まえ、  
 みず 水ぶそくを なくす ために つく  
 られました。



ろっぱのいすい 六把野井水の ようす

なが 長さは、だいたい 12キロメー  
 トル、はばは、2～5メートルです。  
 その後も こうじ 工事が おこな 行われ、いま ひろ 広い 土地に みず 水が  
 いきわたるようになりまし。おもに、こめ 米などの さく 作  
 もつを そだてるために つかっています。



がっこう 学校の した を ながれる ろっぱのいすい 六把野井水の ようす (稲部小学校提供)



ぼくの いところは とういんちょうにある ちかの しょうがっこうに  
かよ通っています。このまえ、ぼくが いとこに ろっばのいすいの  
はなし話をしたら、いところは「うちの ちか近くを とお通っている  
かんたようすい神田用水と にているね。」と はなし話して くれました。

かんたようすい神田用水は、いったん ポンプで みず水を たか高い ところ  
に あげて、そこから すみずみの とち土地に みず水を なが  
して いるそうです。ちか近くには かんたようすい神田用水の かんせいを  
きねんして つくられた せき石ひも あるそうです。

このはなし話を したあと、ぼくと いところは のうぎょうたいけん  
に さんかして、いっしょに た田うえを しました。その  
とき、まち町の たんとうの ひと人が「この た田んぼの みず水もむか  
しの ひと人たちの おかげですよ。」と いっていました。

ぼくたちは それを きいて、ろっばのいすいや かんたようすい  
のことを おも思いだし、もっと くわしく しらべたり、  
き聞いてみたく なりました。

はだして <sup>た</sup> 田んぼに  
<sup>はい</sup> 入りました。水は  
<sup>みず</sup> つめたかったよ。



のうぎよう<sup>たい</sup>体けんの <sup>た</sup> 田うえの ようす

ふ ぼうの  
不忘ひ

かん だ ようすい <sup>かんせい</sup>して、<sup>みず</sup> 水  
ぶそくに <sup>くる</sup>しんだ、<sup>とういんちょう</sup> 東員町の  
<sup>ひと</sup> 人びとの <sup>ねが</sup>いが <sup>かな</sup>いま  
した。



かん だ ようすい <sup>せき</sup> 石ひ (不忘ひ) <sup>ふ ぼうの</sup>

かんが  
**考えてみよう**

- 1 りょうたろうくんの <sup>がっこう</sup> 学校の <sup>した</sup> 下を <sup>なが</sup>がれているものは <sup>ど</sup>んな <sup>も</sup>のですか。
- 2 りょうたろうくんの <sup>いと</sup>この <sup>いえ</sup> 家の <sup>ちか</sup> 近くには <sup>ど</sup>んな <sup>も</sup>のがありますか。
- 3 あなたは りょうたろうくんと <sup>いと</sup>この <sup>まち</sup> すんでいる <sup>がっこう</sup> 町や <sup>ど</sup>んな <sup>と</sup>ころが <sup>す</sup>てきだと <sup>おも</sup>いましたか。
- 4 りょうたろうくんに <sup>じぶん</sup> 自分たちの <sup>がっこう</sup> 学校や <sup>まち</sup> 町を <sup>しょうかい</sup>しようかいする <sup>へんじ</sup> へんじを <sup>か</sup>書きましょう。

# わたしの町を しょうかいしよう



かわごえちょう 川越町

ふる 古くから 伝わる お祭りや 行事

かわごえちょう 川越町に すんでいる あゆみさんは かわごえちょう 川越町に 伝わる お祭

りや 行事を しょうかいした 新聞を おくってくれました。

かわごえちょう 川越町には、どんな お祭りや 行事が あるのでしょうか。



## かわごえ新聞

### お祭り特集

#### 足上げまつり

かわごえちょう 川越町では、毎年8月14日の おぼんの 夜、小学生も、たいまつを かつぎ、大だいこと かねを たたい、神社まで 歩きます。

この時、子どもたちは「アーソーレ」と かけ声を かけて すすみませす。つぎに、「シーシー」という かけ声に 合わせて ひざを まげ、足を 上げます。



たいまつを かつぐ 子どもたち



大だいこを たたく 子どもたち

じんじゃ 神社に つくと、せいねん 青年だんの ひと 人たちが ひろば 広場の まん 中に つくられた「しんばしら」を かこんで「エンエトホラホラ」と 言いながら かた足で とぶようにして 回ります。

#### いもち

「いもち」は、「虫おくり」とも 言われます。「いもち」は、いねに つく がい虫を たいじ して、その年の ほう作を ねがいます。

子どもたちは、たいこが のせてある 車を ひき、その 先頭を わらで つく たいまつに 火を つけて 町内を 歩きます。

今では このような 行事を 行う 地くは 少なくなりましたが、かわごえちょう 川越町では 今でも 毎年 7月の おわりごろに 行われています。



「いもち」は、いねの はを からしてしまう「いもちびょう」のことです。



たいこを ならしながら、たいまつを ともし、がい虫や びょう気を おいはらいます。



# ふる 古くから 伝わった 伝わる お祭り や 行事 ぎょうじ

## いしどり どり まつり 石採 (取) 祭

いしどり どり まつり 祭は、夏の お祭り です。しょうがくせい ちゅうがくせい 小学生や中学生が、「さいしゃ」とよばれる くるま をひき、そこにとりつけられた かねや たいこをリズムよく 大きな おと 音で うちならし、あまりの おと 音の 大きさに、となりの ひと の はな こえ も き 聞こえないくらいです。



さいしゃ を ひく ようす



よる 夜に なり、ちゅうちんに あかりが ともされています



かねや たいこを うちならしている しょうがくせい ちゅうがくせい 小学生や 中学生たち



「私たちの川越町」(川越町教育委員会) ほかから作成

ちゅうがくせい  
中学生の おねえさんに ききました

いしどり (どり) まつり  
石採 (取) 祭のことを いえ はな  
家で 話したら 「かわごえちよう  
ほかに も いしどり (どり) まつり  
石採 (取) 祭は いろん な とこ ろで おこな  
行われ  
ているよ」と おねえ  
お姉さんが おし  
教えてくれました。ちゅうがくせいよう  
中学生用  
の 「み え ぶん か  
三重の文化」という ほん  
本には、くわ な し  
桑名市の いしどりまつり  
石取祭が  
「に ほん いち  
日本一やかましいまつり」と よばれている ことや、  
とういんちよう よっ か いち し すず か し  
東員町、四日市市、鈴鹿市でも おこな  
行われている ことが  
か  
書いてあるそうです。かくち  
かく地の いしどりまつり  
石取祭は、どれも 7~  
10月 に がつ おこな  
行われて、たいこや かねで おお おと  
大きな音を なら  
して 「さいしゃ  
さい車」を ひきながら まち ある  
町を 歩く ようすが  
にているそうです。

かんが  
考えてみよう

- 1 かわごえちよう まつ お祭りや ぎようじ 行事で おもしろそうだと おも  
思ったところは どんな とこ  
ろですか。
- 2 まつ お祭りや ぎようじ 行事に しょうがくせい 小学生や ちゅうがくせい 中学生が さんか  
参加している ことを どう おも  
思いま  
すか。
- 3 あなたの すんでいる まち 町にも まつ お祭りや ぎようじ 行事は ありますか。それは、どん  
な お祭りや ぎようじ  
行事ですか。
- 4 あなたの すんでいる まち 町の まつ お祭りや ぎようじ 行事に ついてしらべ、すてきな と  
ころを しょうかいして みましょう。



こものちよう  
菰野町

# 大切な自ぜんを

# みんなでももろう

## シデコブシ



こものちよう  
菰野町に すむ けいこさんの 学校  
の 近くでは 毎年 春になると シデコ  
ブシが 花を さかせます。

シデコブシは どんな 花なのでしょうか。



「シデコブシ」の 花

シデコブシは 毎年 さくらの 花が さくの と ほぼ 同  
じころ たくさんの 花を さかせます。

シデコブシは ほのかな かおりを ただよわせ 白色や  
うすい べに色の 花を さかせます。

シデコブシは 大むかしから 毎  
年 春に なる と こんなに きれ  
いな 花を さかせます。

長い間、まわりの へんかにも  
まけずに、毎年 花を さかせ  
つづけて きました。



「シデコブシ」の 花と つぼみ

シデコブシは ほかの 国では 見られません。せかい中  
わたしたちの くらす 三重県と おとなりの 岐阜県と 愛  
知県だけで 見られます。

そして その中에서도 かぎられた 地いきだけでしか 見る  
ことが できない、めずらしい、めずらしい花です。  
むかしの人たちが 森や 林を 大切に してくれた おかげで  
シデコブシも 今まで 生きのこって きたのだと 言われて  
います。

シデコブシは 大切に のこしていかなければ ならない  
花の 一つとして、国の「天然記念物」にも えらばれています。

（※天然記念物 たいへん めずらしいため、みんなで まもって いかなければ いけないと  
みとめられた どうぶつや しょくぶつ）



たくさんの 花を つけた 「シデコブシ」

# シデコブシ

秋<sup>あき</sup>になると けいこさんの 学校<sup>がっこう</sup>の 近く<sup>ちか</sup>の シデコブシの まわりで、しょうぼうしさんたちが 火事<sup>かじ</sup>を けすための くんれんをします。

秋<sup>あき</sup>は 空気<sup>くうき</sup>が かんそうして 火事<sup>かじ</sup>が おこりやすくなるからです。かれ草<sup>くさ</sup>が もえて シデコブシが やけてしまっは たいへんです。シデコブシを まもるため、しょうぼうしさんたちは ホースから いきおいよく 水<sup>みず</sup>を まきます。

けいこさんは みんなで もえやすい かれ草<sup>くさ</sup>を あつめたり ごみを ひろったりして、火事<sup>かじ</sup>を ふせげるように しなければいけないと 思<sup>おも</sup>いました。



シデコブシたちを まもるため、水<sup>みず</sup>を まいて くんれんを する しょうぼうしさんたち

シデコブシの いのちを 火事<sup>かじ</sup>から まもるぞ！

火<sup>ひ</sup>あそびは ぜったいに しては いけないよ！

シデコブシが いつまでも 元気に 育ててくれるには どうしたら よいのか しらべたり、木が かわれないように ざっ草などを 年に 一ど、地元の 人たちが かったりしています。

また、みなさんに してもらい あいされるよう、シデコブシが さくときには かんさつ会も ひらいています。



シデコブシは  
 たくさんの 人の 手で  
 まもられて また 来年も  
 きれいな 花を さかせて  
 くれる ことでしょう。

### 考えてみよう

- シデコブシは どんな 花ですか。
- 菰野町の 人たちは シデコブシを まもるために どんな ことを していますか。
- 菰野町の 人たちが シデコブシを まもろうと しているのは どうしてだと 思いますか。
- シデコブシを まもろうと している 菰野町の 人たちを どう 思いますか。
- しょくぶつが 元気に そだつために どんな おうえんが できるか 考えて みましょう。



たまきちょう  
玉城町

たまるじょうあと  
田丸城跡



たまきちょう  
玉城町には、むかし たまるじょう  
田丸城が ありました。今は いま さくらの  
木なども うえられて まち ひと  
町の人たちが あつまる しろやまこうえん  
城山公園と  
なっています。

たまるじょうあと  
田丸城跡は、どんなところでしょうか。

# たいせつ 大切にしたい ば 場しよをさがそう

● うつくしいものを かんじて  
● わたしを そだてる まち 町



しろやまこうえん  
城山公園の おほりに さく「大賀ハス」<夏>



ひがん花と しろやまこうえん  
城山公園 <秋>

「大賀ハス」は、大むかしの ハスの たねから そだったものと いわれています。



さくらが きれいな しろやまこうえん  
城山公園 <春>



ゆき 雪が つもった しろやまこうえん  
城山公園 <冬>

た まるじょうあと  
田丸城跡



ふゆ しるやまこうえん  
冬、城山公園の ちよう上から  
見える 富士山 <朝>



しるやまこうえん いし  
城山公園の 石がきと せいそら  
青い空 <昼>



しるやまこうえん ちか  
城山公園の 近くを ながれる ときだがわ  
外城田川 <夕方>

● うつくしいものを かんじて  
● わたしを そだてる 町



さくらまつりの 城山公園 <夜>

はる 春や ふゆ 冬の きせつに  
は、夜 城山公園を ライト  
トで てらしています。ま  
た、城山公園に きた 人に  
お城や 町の 話を して  
くれる 人や、城山公園を  
きれいに してくれている  
人がいます。

玉城町資料、ほかから作成

### かんが 考えてみよう

- 1 玉城町の 田丸城跡に できた 城山公園は どんな ところですか。
- 2 みなさんは、城山公園の どの きせつが すてきだと 思いますか。また、どうして そう思うのですか。
- 3 みなさんは、城山公園や 城山公園の 近くの しゃしんの うち、朝、昼、夕方、夜の どの 風けいが すてきだと 思いますか。
- 4 みなさんの すんでいる 町で、すばらしい けしきや みんなに しょうかいしたい 場所を さがして みましょう。





わたらいちよう  
度会町

# まち 町につたわる おどりをしらべてみよう!

## まかえ 麻加江かんこおどり



三重県では、むねに たいこを つけて おどる「かんこおどり」が、かく地に つたえられて います。度会町では、麻加江かんこおどりが 行われて います。

みなさんの すんでいる ところでは、どんな おどりが 行われて いますか。

度会町麻加江には、古くから つたわる かんこおどりが あります。麻加江の かんこおどりは、頭に 「しゃぐま」とよばれる 馬の 毛で つくられた かぶりものをつけ、音頭と ほら貝に 合わせて「かんこ」(たいこ)を たたきながら まいます。



麻加江かんこおどりの ようす

かんこおどりは、おぼんの 行じとして 毎年8月15日の 夜、慶林寺の にわで 行われます。はじまったころは、度会町内の ほかの 地くでも 行われていましたが、今では 麻加江だけが 当時の ようすを つたえています。



「かんこ」(たいこ)をつけて います。

頭に 馬の毛でできた「しゃぐま」をつけて おどります。

白と黒の たてじまの 上に こしみのを つけます。

かんこおどりの さい後には、ほいく園児や 小学生による あやおどりが 行われます。



あやおどりの ようす

# 麻加江かんこおどり

## 三重のかんこおどり

たいこを おねに つけて おどる おどりは ぜん国  
かく地に ありますが、三重県では、「かんこおどり」として、  
多くの 地いきで 行われて います。かんこおどりの  
かざりは、地いきに よって さまざまな しゅるい  
が あります。

松阪市（松ヶ崎、獺師かんこおどりなど）と 津市（香  
良洲町の宮おどりなど）と 伊賀市（勝手神社神事おどり  
など）の かんこおどりを れいに 麻加江の かんこお  
どりと くらべてみましょう。

あたま はながさ  
頭に 花笠を つけ、  
て 手ぬぐいで 顔を おおって  
おどります。



まつさかし りょうし  
松阪市の 獺師かんこおどりの ようす  
(松阪市教育委員会提供)



くろ とり はね  
黒い 鳥の 羽の  
かざりを かぶって  
おどります。

つし みや  
津市の 宮おどりの ようす  
(津市教育委員会提供)



かみ はな かざった  
紙の 花で  
わり竹を せおって  
おどります。

い が し かってじんしゃしんじ  
伊賀市の勝手神社神事おどりのようす  
(伊賀市教育委員会提供)

「かんこおどり」は おぼんの 行じとして おどられたり、  
田はたの ほう作を ねがったり、雨ごいなど かみへの  
かんしゃの 気もちを あらわすために おどられたりし  
ます。

( ※おぼんの行じ 8月15日を 中心に 行われる せんぞの れいを まつる 行じ  
※雨ごい 日でりが つづいたときに、雨が ふるようにかみさまや ほとけさまに  
いのること )

度会町広報誌、ほかから作成

## かんが 考えてみよう

- 1 度会町麻加江の かんこおどりは、どんな 行じ ですか。
- 2 度会町麻加江の かんこおどりと ほかの 地いきの かんこおどりで、にいてい  
るところは どこですか。また、ちがっているところは どこですか。
- 3 かんこおどりは、どんなことを ねがって はじめられたのでしょうか。
- 4 度会町麻加江では、なぜ かんこおどりを つたえているのだと 思いますか。
- 5 あなたが すんでいる町の おどりについて しらべて みましょう。

# うた ひろ 歌とともに広ま

# はなし よ った お話を読んでみよう



紀北町

たねまき こんべえ  
種まき 権兵衛

紀北町では、『たねまきこんべえ』という お話が、むかしから  
つたえられてきています。



たねまきこんべえは、どんな 人でしょうか。

たねまきこんべえの歌

こんべえさん

こんべえが たねまきや

カラスがほぜくる

三どに 一どは

おはずばなるまい

ズンベラ ズンベラ

ズンベラ ズンベラ

〔歌のいみ〕

こんべえが たねをまけば

カラスがほりかえす

三回に一回は

おいはらわなければならぬ

※ズンベラとは、

こんべえが

大じにして

いた石です。



お話し

## 「たねまきこんべえ」

むかし 山と 山とに はさまれた 小さな 村に、こんべえ  
という わかものが すんでいました。

村一番の 力もちで、そのうえ、てっぽうの 名人でした。それでいて  
少しも 強がらず、いつも にこにこしていました。こんべえは、村人  
たちの 自まんの たねでした。

なかでも 子どもたちときたら、しごとの ない日など、こんべえに  
つきっきりでした。こんべえも 子どもたちが すきで、ひまさえあれば  
村の まん中を ながれている、銚子川の 川原で、子どもたちと あそ  
んでいました。

日が くれかけると、子どもたちは、

こんべえが たねまきや  
からすが ほじくる  
三どに 一どは  
おわずば なるまい  
ズンベラ ズンベラ  
ズンベラ ズンベラ  
と、はやしながら、家へ 帰っていくのを、  
こんべえは、おこりもせず、にこにこ  
しながら 手を ふって 見おくるので  
した。



それというのも、こんべえは 力もちのくせに、とても 気の やさしい  
男でした。ある日、うらの はたけに せっかく まいた、大こんのた  
ねを、からすが やってきて、かたっぱしから ほじくりだしてしまいま  
した。でも、こんべえは、からすが かわいそうだと、おうことも できず、  
ただこまった 顔をして 見ているだけで  
した。

また、こんべえは、銚子川に おちていた、  
こぶしくらいの、まるい ズベラズベラした  
石を、いつも 大じに ふところに 入れて  
いました。

子どもたちは、こんべえの そんなところ  
が、すきで すきで たまりませんでした。

そのころ、山 ひとつ こえた 天満村の 後ろに そびえる 天倉山  
に、どこからか 大じゃが すみついて、たび人や 近くの 村人を、しば  
しば おそうようになりまして。こまった 村人たちは、こんべえに  
その 大じゃの たいじを たのみました。



たのまれた ごんべえは、さっそく  
てっぼうを かついで、<sup>てんぐらさん</sup>天倉山へ でかけ  
ていきました。

てっぺんに たどりついた ごんべ  
えは、20メートルもの <sup>なが</sup>長さの <sup>だい</sup>大じゃ  
を <sup>み</sup>見つけました。まっ赤っかの <sup>おおくち</sup>大口  
を <sup>か</sup>パクリと あけて、つなのような  
したを <sup>だい</sup>チラチラさせた <sup>だい</sup>大じゃが、  
<sup>いま</sup>今にも <sup>おそいかかろうと</sup>おそいかかろうと していま  
す。ごんべえは <sup>すぐさま</sup>すぐさま、てっぼうを、  
のどの <sup>おくへ</sup>おくへ <sup>ねらいさだめ</sup>ねらいさだめ、ズバーンと、なまりの <sup>たま</sup>玉を <sup>おみまい</sup>おみまい  
しました。

それでも、<sup>だい</sup>大じゃは、まっ赤な <sup>くち</sup>口を あけて、ごんべえに <sup>たちむかっ</sup>たちむかっ  
てきました。もう、<sup>たま</sup>玉を <sup>つめかえる</sup>つめかえる ひまも <sup>ありません</sup>ありません。ごんべえは、  
てっぼうを <sup>なげすてると</sup>なげすてると、ふところから <sup>ズンベラ石</sup>ズンベラ石を <sup>とり出し</sup>とり出し、力  
いっぱい <sup>なげつけました</sup>なげつけました。みごと、<sup>ズンベラ石</sup>ズンベラ石は、<sup>だい</sup>大じゃの <sup>め</sup>目と  
<sup>め</sup>目の <sup>あいだ</sup>間に <sup>ぶちあたりました</sup>ぶちあたりました。

すると <sup>だい</sup>大じゃは、<sup>むらさき色</sup>むらさき色の <sup>けむり</sup>けむりを <sup>からだじゅうから</sup>からだじゅうから <sup>ふき</sup>ふき  
だして、ドウと <sup>たおれました</sup>たおれました。けれども、ごんべえも <sup>また</sup>また、その <sup>けむり</sup>けむり  
に <sup>つつまれて</sup>つつまれて、<sup>きを</sup>きを <sup>うしなってしまう</sup>うしなってしまうしました。

あくる日、<sup>ひ</sup>心ばいして <sup>やま</sup>山へ <sup>のぼってきた</sup>のぼってきた <sup>むらびと</sup>村人たちに <sup>たすけられ</sup>たすけられ、  
<sup>と</sup>戸いたに <sup>のせられ</sup>のせられ、<sup>う</sup>生まれた <sup>むら</sup>村に <sup>かえ</sup>帰ってきた <sup>ごんべえ</sup>ごんべえは、まもなく、  
<sup>いきを</sup>いきを <sup>ひきとって</sup>ひきとってしまいました。

<sup>むらびと</sup>村人たちは <sup>みんなで</sup>みんなで、りっぱな <sup>ごんべえの</sup>ごんべえの <sup>はか</sup>はかを <sup>つくりました</sup>つくりました。  
<sup>こ</sup>子どもたちは、その <sup>はかの</sup>はかの <sup>まえ</sup>前で、<sup>ごんべえの</sup>ごんべえの <sup>うた</sup>歌を、<sup>なみだ</sup>なみだを <sup>ながしな</sup>ながしな  
がら <sup>うた</sup>歌いしました。

<sup>ごんべえの</sup>ごんべえの <sup>うた</sup>歌は、<sup>ごんべえの</sup>ごんべえの <sup>うわさ</sup>うわさと <sup>ともに</sup>ともに、いつしか、<sup>に</sup>日本中  
に <sup>ひろ</sup>広まって <sup>いきました</sup>いきました。



## ごんべえさん

種<sup>たね</sup>まき<sup>ごん</sup>権<sup>べ</sup>兵<sup>え</sup>衛のモデルは、むかし、紀北<sup>きほくちよう</sup>町に、すんでいた<sup>うえむら</sup>上村<sup>ごんべえ</sup>ごんべえという<sup>ひと</sup>人です。ごんべえさんの<sup>いま</sup>はかは、今も<sup>ほうせんじ</sup>宝泉寺という<sup>てら</sup>寺に<sup>のこ</sup>のこっています。

今でも<sup>いま</sup>町では、毎年「たねまき<sup>ごんべえ</sup>ごんべえまつり」というまつりが<sup>ひら</sup>ひらかれ、「ごんべえ<sup>おどり</sup>おどり」が<sup>おど</sup>おどられています。



ごんべえさんのはか  
(紀北町教育委員会提供)

「民話の絵本5 たねまきごんべえ」(さ・ら・え書房)、ほかから作成

### かんが 考えてみよう

- 1 『ごんべえさん』の<sup>よ</sup>かしを<sup>よ</sup>読んで<sup>みま</sup>みましょう。
- 2 お話<sup>はなし</sup>に<sup>で</sup>出てくる<sup>ごんべえ</sup>ごんべえさんは、どんな<sup>ひと</sup>人ですか。
- 3 お話<sup>はなし</sup>の<sup>なか</sup>中の<sup>こ</sup>子どもたちは、ごんべえさんを<sup>どう</sup>どう<sup>おも</sup>思っていたと<sup>おも</sup>思いますか。
- 4 『ごんべえさん』の<sup>か</sup>かしは、ごんべえさんの<sup>ど</sup>どんな<sup>ところ</sup>ところを<sup>つた</sup>つたえているのだと<sup>おも</sup>思いますか。
- 5 ごんべえさんの<sup>ど</sup>どんな<sup>ところ</sup>ところが<sup>すて</sup>すてきだと<sup>おも</sup>思いますか。
- 6 あなたの<sup>まち</sup>町にも、むかしから<sup>つた</sup>つたわる<sup>うた</sup>歌や<sup>はなし</sup>お話は<sup>あ</sup>ありますか。しらべて<sup>みま</sup>みましょう。

# あるさどにつたわるお話を さがそう



## みね や くろう きしゅうけん 峯弥九郎と 紀州犬

御浜町には、かりに もちいられてきた  
紀州犬に まつわる『峯弥九郎と紀州犬』  
という お話が のこされて います。  
峯弥九郎さんは、どんな 人でしょうか。  
また、紀州犬と どんな かかわりが  
あるのでしょうか。



紀州犬 (御浜町提供)

紀州犬という犬は、みんなで大事に守ってほしいと国の天然記念物に選ばれています。

### お話

### 「峯弥九郎 ものがたり」

熊野のおく山にあるさか本村に、峯弥九郎というりょうしがすんどっての。  
あるとき、弥九郎は新宮へ用があつて行ったんじゃが、帰りがおそくなってな。山道を歩いて、とうげまで来ると、もう日はとっぷりとくれてしもた。  
と、くらやみの中で、ごそごそ うごいとる もんがある。弥九郎があたりを見まわすと、2間(やく4メートル)ぐらいはなれたところで、なにかがキラキラ光つとる。よく見ると、なんと一ぴきのおおかみの目玉 やったんじゃ。  
おおかみは くるしそうに 近づいて きてな。

「なにか くるしそうじゃのう。わしが 見たるか」と、おおかみが だらんと あけている 口の中を のぞきこむと、「おお、おお、かわいそうに。大きな ほねが ささっとるぞ」と、おおかみの 口に 手を 入れて、さっと ほねを ぬいてやったんや。「どうれ。そんなら 帰るとしようか」さか本の 家に むかって 歩き出すと、おおかみも トボトボと 後をついてくる。弥九郎は、

「おおかみよ、もう このあたりで ええから、お前も 帰って休め。そのかわり お前に子が生まれたら、一ぴき わしに くれよ」と 言って おおかみを 帰したんやと。

それから 半年たち、おおかみの ことなど すっかり わすれとった 弥九郎が 朝 おきると、家の 前で クンクンと 子犬の 鳴く 声 が する。戸を あけると、一ぴきの かわいい 子犬が まとわりついて きたんじゃ。よく見ると それは おおかみの 子やった。  
弥九郎は、子犬を マンと 名づけて 大切に そだてたんじゃ。大きくなると かりにも つれて いくようになつてのう。マンは、弥九郎も おどろくほど すばらしい りょう犬となつて、あたりでも その名が 知られるほどに なつたんじゃと。  
そんな あるとき、新宮の とのさまから、



「かりを するゆえ、りょうしは あつまるように」  
との おふれが 出<sup>で</sup>ての。弥九郎も マンをつれて かりに さんか  
したんじゃ。

とのさまが 山<sup>やま</sup>の 上<sup>うへ</sup>で 休<sup>やす</sup>んで いた ときの ことや。一頭<sup>いっとう</sup>の け  
がをおった いのししが とび出<sup>だ</sup>し、とのさま めがけて つきすすんで  
きたんじゃ。あわや、というとき、どこからか マンが とび出<sup>だ</sup>してきて、  
いのししの のどを めがけて とびかかったんやて。

あやうい ところを たすけられた とのさまは たいそう よろこん  
で、弥九郎と マンに たくさんの ほうびを あたえたんじゃと。



そんな ある日<sup>ひ</sup>の 夜<sup>よる</sup>、近く<sup>ちか</sup>に すんどった おばが 弥九郎<sup>やくろう</sup>を たず  
ねてきて、

「弥九郎<sup>やくろう</sup>よ、お前<sup>まえ</sup>が かわいがつとる マンは、おおかみの 子<sup>こ</sup>じゃと  
せ間<sup>けん</sup>では 言<sup>い</sup>うが、本当<sup>ほんとう</sup>の 話<sup>はなし</sup>かのう」

と たずねるもんで、弥九郎<sup>やくろう</sup>は、これまでの こと<sup>こと</sup>を 話<sup>はな</sup>したそうじゃ。  
「そやけど おおかみは 人間<sup>にんげん</sup>に どれほど かわいがられても、生き物<sup>いきもの</sup>



を千びき 食うと、つぎは かい  
ぬしを おそう、そう むかしか  
ら 言われとるぞ。用心した 方  
が ええぞ」

とおばは つづけて 言うた。

そとで 聞いとった マンは、  
話が おおると かなしそうに三  
回、夜空に むかって とおぼえ  
をし、すがたを けしたそうな。

ゆう名な 紀州犬は、弥九郎が そだてた マンの ちを 引いている  
と 言われとるんじゃ。



三重県Webページ、ほかから作成

### かんが 考えてみよう

- 1 峯弥九郎は どんな しごとを していましたか。
- 2 峯弥九郎は、くらやみの 中で、おおかみに 出会ったとき、おおかみの こと  
をどう思ったでしょうか。
- 3 峯弥九郎は、おおかみに どんな きもちで どんな ことを してあげまし  
たか。
- 4 とのさまを たすけた マンの ことを 峯弥九郎は どう 思ったと 思いま  
すか。
- 5 マンは、どうして すがたを けしてしまったのだと 思いますか。
- 6 あなたの すんで いる 町には どうぶつが 出てくる お話は ありませ  
んか。しらべて みましょう。

# 三重県 こころのノート

小 学 校 1 ・ 2 年

平成 26 年 3 月発行  
発行者 三重県教育委員会

---

著作権所有 三重県教育委員会  
〒514-8570 三重県津市広明町 13 番地

---

